

国立大学法人・電気通信大学

調布市調布ヶ丘1-5-1
042-443-5019

電通大ってどんなところ？

調布駅北口より北に向かつてまっすぐ進むと、突き当たりにあるのが国立大学法人・電気通信大学（以下電通大）だ。このいささか味気ない名前の大学は、コヒーレント光科学、ナノ・テクノロジ、最新のロボット研究など、日本が世界に誇る最先端の科学技術に関わる数多くの研究プロジェクトを進め、また技術立国日本の次代を担う若いエンジニアを育み、私たちの生活に欠かせなくなった先端科学技術を支えている。

や携帯端末などのソフトウェア・ハードウェア、ITにおけるデータ伝送・圧縮技術、ロボット工学や人工知能、それらを支える量子・物理レベルの基礎研究、それらの技術を実際に役立つシステムにするためのシステム工学、さらには環境工学や新しいコミュニケーション・テクノロジー技術の開発など、扱う分野は幅広く、私たちの社会に密接に関わっている。総学生数5000人余。大学院も含め、日本の高い技術を学びたいと、中国、韓国、マレーシア、ベトナム等からの外国人留学生も多い。

1したり、コンピュータによる知的ゲームの作り方講習会、ロボットコンテスト、「子供発明クラブ」など、地域の市民や子供たちとの交流も盛んである。

学生の意欲を高めるための新たな試み

その電通大で今、市民ボランティアや企業などと連携し、1年生からのキャリア教育を行うというおもしろい取り組みが行われている。（キャリア教育）とは、自分自身の適正や志向を知り、仕事を知り、社会を知ること、自分の将来像を自分自身で組み立てていける力を養う教育のこと。大学受験合格という大きな目標を達成した学生は、ともすれば目標を失いがちだ。ところが先端科学技術の進歩は目覚ましく、特に知識や技術の積み重ねが不可欠な理工系の学問では、目標を見失い、迷っているのは、授業についてい



けなくなってしまう。そこで、自分自身の個性を知り、長所を伸ばしながら、先端技術に結びついた職業の具体的な内容や、社会が求める人間像について知ること、新たに目標を定め、学習に対するモチベーション高めよう、というものだ。

具体的には、産業界で活躍する社会人講師による講義、夏休みを利用した実際の企業の現場見学、自分の個性・才能・価値観を理解し、客観的に自分を評価するための少数ワークショップ、技術者に

求められる基本的素養——特にコミュニケーションスキルについての講義と演習、インターンシップ（就業体験）など、多岐にわたっている。

分のキャリアが役立つならと、多くの応募があり、現在22名のボランティアがこの取り組みを支えているという。現在も引き続きボランティア募集中だ。

豊かな感受性を持ったエンジニアに託す未来

また、ひとりひとりの学生によりきめ細かい支援を可能にするために、主として大企業の経営者・管理職経験者を中心としたキャリア教育ボランティアを募集している。ボランティアといっても、学生と一緒に授業に参加し、学生の感想を聞いてそれに対してフィードバックやアドバイスをしたり、反省会に出席したりと、実際にはかなりハード。学生たちが自分の将来を決めていく大切なプロセスに立ち会うわけで、大きな責任も伴う。またパソコンを使えることが必須条件だ。それでも自

では1年生という早い時期から始めることで、より早い段階で目標を定め、意欲的に学習することを狙っている。このプロジェクトは文部科学省特別教育研究経費に認められ、財政支援も受けている。まさに市民・企業・大学・行

政が一体になって提携し、新たな未来の礎を築こうとしているのだ。科学技術の進歩とその広がりには私たちの未来を方向づける。「だからこそやりがいがあります」と竹内教授。豊かな感受性をもった未来のエンジニアに期待したい。



竹内利明客員教授

なんと至れり尽くせりという気がするが、「今の学生は〈ゆとり教育〉のもと、知識の量は減らされています。一方科学技術はどんどん進歩し、修得すべき課題はどんどん増えていきます。さらに社会や企業が求める人材は、単に技術だけでなく、コミュニケーション能力や、自分で問題を発見し解決していく能力など、人間力が求められます。そのギャップをどこかで埋めてやらなければなりません。教育機関としてはあたりまえのこと、とも言えるんです」と、この取り組みの実質的責任者である竹内利明客員教授。電通大